小学校国語科教科書・漢字辞典で部首の捉え方の異なる学習漢字

濱千代　いづみ

キーワード：学習漢字　部首　国語科教科書　漢字辞典　新字体

1　はじめに

本研究の目的は小学校の国語科教科書・漢字辞典のどれかで部首の捉え方の異なる漢字の実態を把握することである。濱千代いづみ(2006)で、小学生用に編集された漢字辞典（漢和辞典）における漢字の部首の立て方について調査・整理し、『康熙字典』との比較を通して実態を分析した。その際、漢字辞典によって部首の捉え方の異なる漢字、呼称の多い部首に関して稿を改めて論述したいと考えていた。研究方法は次のようである。

① 小学校の国語科教科書を対象にして、学習漢字全部の部首の立て方を調査する。

② 共通に掲載されている部首、そうではない部首を明らかにする。

③ 小学校の国語科教科書・漢字辞典のどれかで部首の捉え方の異なる漢字を明らかにし、各漢字の扱いの実態を把握する。

2　調査対象

平成17年度に小学校の国語科教科書が改定された。その時には光村図書出版、教育出版、東京書籍、学校図書、大阪書籍の五社から発行され、現在も使われている。そのうち光村図書出版、学校図書の二社においてはすべての学習漢字の部首が示されている。また、教育出版においては第三学年以上の教科書巻末に部首が示してあり、前学年の配当漢字も併せて掲載してあるので、第二学年以上の学習漢字の部首を見ることができる。しかし、東京書籍、大阪書籍発行のものには部首が示してない。

ところで、平成14年度の小学校の国語科教科書は上記五社に日本書籍を加えた六社から発行された。日本書籍においてはすべての教育漢字の部首が示してあった。平成17年度発行のものには部首の掲載がなかった二社のうち、東京書籍においては第三学年以上の教科書巻末に部首が示してあったので、第三学年以上の学習漢字の部首を見ることができた。大阪書籍発行のものには部首が示してなかった。

以上の事情から、本研究で調査の対象とした小学校の国語科教科書は次のものである。略称も併せて示す。

i　『国語』光村図書出版、平成17年度版・・・〔光図〕

ii　『小学校　国語』学校図書、平成17年度版・・・〔学図〕

iii　『小学国語　ひろがる言葉』教育出版、平成17年度版・・・〔教出〕（第二学年以上）

iv　『新しい国語』東京書籍、平成14年度版・・・〔東書〕（第三学年以上）〈注1〉

v　『小学国語』日本書籍、平成14年度版・・・〔日書〕

また、本研究で調査に用いた小学生用に編集された漢字辞典は次のものである。略称も併せて示す。

i　『光村漢字学習辞典』・・・〈光村〉，〈光〉

ii　『旺文社小学漢字新辞典』・・・〈旺文〉，〈旺〉

iii　『三省堂例解小学漢字辞典』・・・〈三省〉，〈三〉

iv　『例解学習漢字辞典』・・・〈小学〉，〈小〉

v　『くもんの学習漢字字典』・・・〈くも〉，〈く〉

なお、次のものを参考に用いた。

vi　『下村式小学漢字学習辞典』・・・〈偕成〉，〈偕〉

3　小学校国語科教科書に共通に掲載されている部首

日本の漢字辞典は漢字の部首の立て方を、基本的に中国の『康熙字典』（略称を〈康熙〉とする）に依拠している。〈康熙〉には214種類の部首が掲示してある。小学校の国語科教科書に共通に掲載されている部首を〈康熙〉の部首を基準にして示すと表１のようである。〈康熙〉の総目にない変化形に◎印、新字体に○印を付す。

表１　小学校国語科教科書に共通に掲載されている部首

康熙画数	部首番号	部首	代表的な呼称
一画	1	一	いち
	3	丶	てん
	4	丿	の はらいぼう
	5	乙,	おつ
		乚◎	おつにょう
	6	亅	はねぼう
二画	8	亠	なべぶた けいさんかんむり
	9	人, 亻, ⺈◎	ひと にんべん ひとやね

	10	儿	ひとあし にんにょう
	12	八，亠〇	はち はちがしら
	13	冂	どうがまえ けいがまえ
	14	冖	わかんむり
	15	冫	にすい
	16	几	つくえ きにょう
	18	刀， 刂	かたな りっとう
	19	力	ちから
	20	勹	つつみがまえ
	21	匕，匕	ひ
	22	匚	はこがまえ
	24	十	じゅう
	26	卩，㔾	ふしづくり
	27	厂	がんだれ
	28	厶	む
	29	又	また
三画	30	口	くち くちへん
	31	囗	くにがまえ
	32	土	つち つちへん
	33	士	さむらい
	35	夂	すいにょう
	36	夕	ゆうべ た
	37	大	だい

	38	女	おんな おんなへん
	39	子	こ こへん
	40	宀	うかんむり
	41	寸	すん
	43	尢，兀， 允，允	だいのまげあし
	44	尸	しかばね
	46	山	やま やまへん
	47	巛，川	かわ
	48	工	こう たくみへん
	49	己	おのれ
	50	巾	はばへん きんべん
	51	干	かん いちじゅう
	52	幺	よう いとがしら
	53	广	まだれ
	54	廴	えんにょう
	56	弋	よく しきがまえ
	57	弓	ゆみ ゆみへん
	60	彳	ぎょうにんべん
四画	61	心， 忄， ⺗	こころ りっしんべん したごころ

	62	戈	ほこ ほこづくり
	63	戸, 戸○	と とかんむり
	64	手, 扌	て てへん
	65	支	しにょう えだにょう
	66	攴, 攵	のぶん ぼくにょう
	68	斗	とます と
	69	斤	きん おのづくり
	70	方	ほう ほうへん
	72	日	ひ ひへん
	73	曰	ひらび
	74	月	つき つきへん
	75	木	き きへん
	76	欠	あくび
	77	止	とめる とめへん
	78	歹, 歺	がつへん いちたへん
	79	殳	ほこづくり るまた
	81	比	ならびひ

			くらべる
	83	氏	うじ
	85	水, 氵, 氷	みず さんずい したみず
	86	火, 灬	ひ、ひへん れっか、れんが
	91	片	かた かたへん
	93	牛, 牜	うし うしへん
	94	犬, 犭	いぬ けものへん
五画	95	玄	げん
	96	玉, 王	たま、たまへん おうへん
	100	生	うまれる
	102	田	た たへん
	103	疋	ひき
	104	疒	やまいだれ
	105	癶	はつがしら
	106	白	しろ
	107	皮	けがわ ひのかわ
	108	皿	さら
	109	目, 罒	め、めへん よこめ
	111	矢	や やへん

	112	石	いし いしへん
	113	示, 礻○	しめす しめすへん
	115	禾	のぎへん
	116	穴	あな あなかんむり
	117	立	たつ たつへん
六画	118	竹	たけ たけかんむり
	119	米	こめ こめへん
	120	糸	いと、いとへん
	122	网, 罒	あみめ あみがしら
	123	羊	ひつじ ひつじへん
	124	羽, 羽○	はね
	125	老, 耂◎	おいかんむり
	127	耒	すきへん
	128	耳	みみ みみへん
	130	肉, 月	にく にくづき
	131	臣	しん
	133	至	いたる
	135	舌	した
	137	舟	ふね ふねへん
	138	艮	こんづくり

	140	艸, 艹, 艹○	くさ くさかんむり
	142	虫	むし むしへん
	143	血	ち
	144	行	ぎょうがまえ ゆきがまえ
	145	衣, 衤◎	ころも ころもへん
	146	襾, 西, 覀○	おおいかんむり にし
七画	147	見	みる
	148	角	つの つのへん
	149	言	ごんべん
	151	豆	まめ
	152	豕	いのこへん ぶた
	154	貝	かい かいへん
	156	走	はしる そうにょう
	157	足, ⻊◎	あし あしへん
	158	身	み
	159	車	くるま くるまへん
	160	辛	しん からい
	161	辰	しんのたつ
	162	辵,	しんにょう

		辶,辶○	しんにゅう
	163	邑, 阝	むら おおざと
	164	酉	とりへん ひよみのとり
	166	里	さと さとへん
八画	167	金	かね かねへん
	169	門	もん もんがまえ
	170	阜, 阝	おか こざとへん
	172	隹	ふるとり
	174	靑,青○	あお
	175	非	あらず
九画	176	面	めん
	177	革	かわへん つくりがわ

	181	頁	おおがい
	183	飛	とぶ
	184	食, 飠	しょく しょくへん
十画	187	馬	うま うまへん
	188	骨	ほね ほねへん
十四画	209	鼻	はな
十五画	211	齒,歯○	は はへん

新しく作り出されたもの

三画	／	ツ	つかんむり

（注）21「ヒ，匕」はもと別字である。
〈康熙〉は分けない。

〈康熙〉を継承しているものは214種類のうち141種類である。新しく作り出されたものは「ツ」１種類である。小学校の国語科教科書には合計142種類が共通に掲載されている。

4　小学校国語科教科書のどれかで掲載されていない部首

小学校の国語科教科書のどれかで掲載されていない部首を〈康熙〉の部首を基準にして示すと表２のようである。掲載のある場合に○印、ない場合に＊印を付す。

表２　小学校国語科教科書のどれかで掲載されていない部首

康熙 画数	部首 番号	部首	代表的な呼称	光図	学図	教出	東書	日書
一画	2	丨	たてぼう ぼう	○	○	＊(1)	＊	○

二画	7	二	に	○	○	＊(2)	＊	○
	11	入	いる いりがしら	○	○	○	＊(3)	○
	17	凵	うけばこ かんにょう	○	○	＊(4)	＊	○
	23	匚	かくしがまえ	＊	＊	＊	＊	＊
	25	卜	ぼく	＊	＊	＊	＊	＊
三画	34	夂	ふゆがしら〈注2〉	＊	＊	＊	＊	＊
	42	小， ⺌○	しょう ちいさい	○	○	○	＊(5)	○
	45	屮	てつ	＊	＊	＊	＊	＊
	55	廾	にじゅうあし こまぬき	○	＊(6)	○	○	○
	58	⺕，⺕， 彑	けいがしら	＊	＊	＊	＊	＊
	59	彡	さんづくり	○	○	○	＊(7)	○
四画	67	文	ぶん	○	○	＊(8)	＊	○
	71	无，无	むにょう	＊	＊	＊	＊	＊
	80	毋	なかれ	＊(9)	○	＊	○	＊
	82	毛	け	○	○	○	＊(10)	○
	84	气	きがまえ	○	○	＊(11)	＊	○
	87	爪，爫， ⺤○	つめ つめかんむり	＊(12)	○	＊	＊	＊
	88	父	ちち	○	○	○	＊(13)	○
	89	爻	こう	＊	＊	＊	＊	＊
	90	爿，⺤○	しょうのへん	＊	＊	＊	＊	＊
	92	牙	きば きばへん	＊	＊	＊	＊	＊
五画	97	瓜	うり	＊	＊	＊	＊	＊
	98	瓦	かわら	＊	＊	＊	＊	＊
	99	甘	あまい	＊	＊	＊	＊	＊
	101	用	もちいる	○	○	○	＊(14)	○

	110	矛	ほこ ほこへん	*	*	*	*	*
	114	肉	じゅうのあし	*	*	*	*	*
六画	121	缶	ほとぎ	*	*	*	*	*
	126	而	しこうして	*	*	*	*	*
	129	聿	ふでづくり	*	*	*	*	*
	132	自	みずから	○	○	○	*(15)	○
	134	臼	うす	○	*(16)	○	○	○
	136	舛	まいあし	*	*	*	*	*
	139	色	いろ	○	○	○	*(17)	○
	141	虍	とらかんむり とらがしら	*	*	*	*	*
七画	150	谷	たに	○	○	○	*(18)	○
	153	豸	むじなへん	*	*	*	*	*
	155	赤	あか	○	○	*(19)	*	○
	165	釆	のごめ のごめへん	*	*	*	*	*
八画	168	長	ながい	○	○	○	*(20)	○
	171	隶	れいづくり	*	*	*	*	*
	173	雨	あめ あめかんむり	○	○	○	*(21)	○
九画	178	韋	なめしがわ	*	*	*	*	*
	179	韭	にら	*	*	*	*	*
	180	音	おと おとへん	○	○	*(22)	*	○
	182	風	かぜ	○	○	○	*(23)	○
	185	首	くび	○	○	○	*(24)	○
	186	香	かおり	*	*	*	*	*
十画	189	高	たかい	○	○	○	*(25)	○
	190	髟	かみがしら	*	*	*	*	*
	191	鬥	とうがまえ たたかいがまえ	*	*	*	*	*

	192	鬯	ちょう においざけ	*	*	*	*	*
	193	鬲	かなえ	*	*	*	*	*
	194	鬼	おに きにょう	*	*	*	*	*
十一画	195	魚	うお うおへん	○	○	○	*(26)	○
	196	鳥	とり とりへん	○	○	○	*(27)	○
	197	鹵	しお	*	*	*	*	*
	198	鹿	しか	*	*	*	*	*
	199	麥, 麦○	むぎ ばくにょう	○	○	○	*(28)	○
	200	麻	あさ あさかんむり	*	*	*	*	*
十二画	201	黄，黄○	き	○	○	○	*(29)	○
	202	黍	きび	*	*	*	*	*
	203	黑，黒○	くろ	○	○	○	*(30)	○
	204	黹	ぬいとり ふつへん	*	*	*	*	*
十三画	205	黽	べんあし かえる	*	*	*	*	*
	206	鼎	かなえ	*	*	*	*	*
	207	鼓	つづみ	*	*	*	*	*
	208	鼠	ねずみ	*	*	*	*	*
十四画	210	齊，斉○	せい	*	*	*	*	*
十六画	212	龍，竜○	りゅう	*	*	*	*	*
	213	龜，亀○	かめ	*	*	*	*	*
十七画	214	龠	やく	*	*	*	*	*
五画		母	はは	○	*(9)	○	*	○

表2で〈康熙〉の総目に掲示してあるものは73種類である。そのうち、小学校の国語

科教科書でまったく掲載されていないのは33種類である。その部首番号を次にあげる。学習漢字の中に、これらを部首として掲示するものは存しない。

部首番号　23　25　34　45　58　71　89　90　92　97
98　99　110　114　121　126　129　136　141　153
165　171　178　179　186　190　191　192　193　194
197　198　200　202　204　205　206　207　208　210
212　213　214

新しく作り出されたものは「母」1種類である。これに関しては以下の【留意点】(9)で述べる。

表2で留意すべき点について表中に付した番号の順に記す。

【留意点】

(1)〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「中」の部首として「丨」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。〔教出〕は第二学年以上、〔東書〕は第三学年以上の漢字で部首が判明するので未掲載（＊）となった。

(2)〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「二」「五」の部首として「二」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

(3)〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「入」の部首として「入」を示す。〔教出〕は第三学年配当の「全」の部首として「入」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。「全」に関しては後述する。

(4)〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「出」の部首として「凵」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

(5)〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「小」、第二学年配当の「少」「当」の部首として「小」を示す。〔教出〕は「少」「当」で示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

(6)〔光図〕〔教出〕〔東書〕〔日書〕は第五学年配当の「弁」の部首として「廾」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。「弁」に関しては後述する。

(7)〔光図〕〔学図〕〔教出〕〔日書〕は第二学年配当の「形」の部首として「彡」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

(8)〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「文」の部首として全画の「文」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

これと同様、三社では第一学年配当の漢字の部首として全画を示すが、これを部首とする学習漢字が他に存しないため、〔教出〕〔東書〕で未掲載（＊）となったの

は（19）「赤」、（22）「音」である。

（9）〔学図〕は第二学年配当の「母」「毎」、第四学年配当の「毒」の部首として、「毋」を示す。〔東書〕は第四学年配当の「毒」で示す。一方、〔光図〕〔教出〕〔日書〕は「母」「毎」「毒」の部首として「母」を示す。〈康熙〉では「母」を「毋」部の所属漢字として扱っている。そこで、次章以下では「母」「毎」「毒」について、部首の扱いが異なる漢字として扱わないことにする。なお「毋」は表外字である。

（10）〔光図〕〔学図〕〔教出〕〔日書〕は第二学年配当の「毛」の部首として全画の「毛」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

これと同様、四社では第二学年配当の漢字の部首として全画を示すが、これを部首とする学習漢字が他に存しないため、〔東書〕で未掲載（＊）となったのは次のものである。

（13）「父」、（14）「用」、（15）「自」、（17）「色」、（18）「谷」、（20）「長」、（23）「風」、（24）「首」、（25）「高」、（26）「魚」、（27）「鳥」、（28）「麦」、（29）「黄」、（30）「黒」

（11）〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「気」の部首として「气」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

（12）〔学図〕は第四学年配当の「争」の部首として「爪」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。「争」に関しては後述する。

（16）〔光図〕〔教出〕〔東書〕〔日書〕は第五学年配当の「興」の部首として「臼」を示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。「興」に関しては後述する。

（21）〔光図〕〔学図〕〔日書〕は第一学年配当の「雨」、第二学年配当の「雲」「雪」「電」の部首として「雨」を示す。〔教出〕は「雲」「雪」「電」で示す。その他の学習漢字でこれを部首とするものはない。

5　部首の捉え方の異なる漢字

5.1　小学校国語科教科書・漢字辞典のどれかで部首の捉え方の異なる漢字

小学校の国語科教科書により部首の扱いが異なる学習漢字は次の9字である。

第二学年	内　冬	計２字
第三学年	全	計１字
第四学年	争	計１字
第五学年	舎　興　弁	計３字
第六学年	並　巻	計２字　合計９字

漢字辞典により部首の捉え方が異なる学習漢字は次の21字である。[注3]

第二学年　内　冬　当　売　画　帰　　計6字

第三学年　予　区　全　有　医　　計5字

第四学年　争　単　巣　　計3字

第五学年　舎　営　　計2字

第六学年　処　並　巻　党　厳　　計5字　合計21字

以上を併せると小学校の国語科教科書・漢字辞典のどれかで部首の捉え方の異なる漢字は次の23字になる。

第二学年　内　冬　当　売　画　帰　　計6字

第三学年　予　区　全　有　医　　計5字

第四学年　争　単　巣　　計3字

第五学年　舎　営　興　弁　　計4字

第六学年　処　並　巻　党　厳　　計5字　合計23字

これらを部首の捉え方の相違により整理して示すと表3のようになる。小学校の国語科教科書で掲示してある部首に●印、漢字辞典で掲示してある部首に○印を付した。

表3　小学校国語科教科書・漢字辞典のどれかで部首の扱いが異なる漢字

番号	漢字	学年	部首	部首呼称	光図	学図	教出	東書	日書	光村	旺文	三省	小学	くも	偕成
1	内	2	冂	どうがまえ							○	○	○	○	○
			入	いりがしら	●		●		●	○					
			人	ひと		●									
2	冬	2	夂	ふゆがしら								○	○	○	○
			冫	にすい	●		●		●	○	○				
			夊	のぶん		●									
3	当	2	小	しょう	●	●	●		●	○		○	○	○	○
			亠	つかんむり							○				
4	売	2	士	さむらい	●	●	●		●	○	○		○	○	○
			儿	ひとあし								○			
5	画	2	田	たへん	●	●	●		●	○		○	○	○	○
			凵	うけばこ							○				
6	帰	2	巾	はばへん	●	●	●		●	○	○	○		○	○

			リ	り									○		
7	予	3	亅	はねぼう	●	●	●	●	●	○	○	○		○	○
			マ	ま									○		
8	区	3	匚	はこがまえ	●	●	●	●	●	○		○		○	○
			匸	かくしがまえ							○		○		
9	全	3	人	ひとやね		●		●			○	○	○	○	○
			入	いりがしら	●		●		●	○					
10	有	3	月	つきへん	●	●	●	●	●	○	○	○	○		○
			肉	にくづき										○	
11	医	3	匚	はこがまえ	●	●	●	●	●	○		○		○	○
			匸	かくしがまえ							○		○		
12	争	4	亅	はねぼう	●		●	●	●	○		○		○	○
			ク	く							○		○		
			爪	つめ		●									
13	単	4	ツ	つかんむり	●	●	●	●	●	○	○		○	○	○
			十	じゅう								○			
14	巣	4	ツ	つかんむり	●	●	●	●	●	○	○		○	○	○
			木	きへん								○			
15	舎	5	人	ひとやね		●		●			○	○	○	○	○
			舌	した	●		●		●	○					
16	営	5	ツ	つかんむり	●	●	●	●	●	○	○		○	○	○
			口	くち								○			
17	興	5	臼	うす	●		●	●	●	○	○	○	○	○	○
			八	はち		●									
18	弁	5	廾	にじゅうあし	●		●	●	●	○	○	○	○	○	○
			ム	む		●									
19	処	6	几	つくえ	●	●	●	●	●	○	○	○			○
			夂	ふゆがしら									○	○	
20	並	6	一	いち	●	●	●		●	○		○		○	○
			亠	そいち							○				

			ソ	そ									○		
			立	たつ				●							
21	巻	6	己	おのれ				●			○	○	○	○	○
			卩	ふしづくり	●	●	●		●	○					
22	党	6	儿	ひとあし	●	●	●	●	●	○		○			○
			小	しょう									○	○	
			ッ	つかんむり							○				
23	厳	6	ッ	つかんむり	●	●	●	●	●	○	○		○	○	○
			夂	のぶん								○			

〔東書〕では7・9・11・12・13・14・15・16・18・19・21・22・23の部首を次のように示してある。先に示してあるものにより整理した。

7「予」　亅（豕）、9「全」　人（入）、11「医」　匚（酉）、12「争」　亅（爪）、13「単」　ッ（口）、14「巣」　ッ（巛）、15「舎」　人（舌）、16「営」　ッ（火）、18「弁」　廾（辛）、19「処」　几（虍）、21「巻」　己（卩）、22「党」　儿（黒）、23「厳」　ッ（口）

〔日書〕では1・9・15の部首を次のように示してある。先に示してあるものにより整理した。

1「内」　入（冂）、9「全」　入（人）、15「舎」　舌（人）

5.2　各漢字の分析と説明

表3にあがった学習漢字23字に関して、なぜ部首の扱いが異なるのかを分析し、説明する。

1内

漢字辞典では五社が「冂」に所属させている。国語科教科書では三社が「入」を掲示している。「内」の旧字体は「人」の部分が「入」である。この漢字は〈康熙〉で「入」部に所属する。漢字辞典の「冂」は新字体による分類であろう。国語科教科書三社及び〈光村〉は〈康熙〉の部首を継承しているが、〔学図〕は新字体でその部分にあたる「人」に変更した。

2冬

漢字辞典では四社が「夂」に、二社が「冫」に所属させている。国語科教科書では三

社が「冫」を掲示している。「冬」の旧字体は脚の部分が「冫」である。この漢字は〈康熙〉で「冫」部に所属する。漢字辞典四社の「夂」は新字体の脚の部分の形の部首が存しないことによる分類であろう。国語科教科書三社及び〈光村〉〈旺文〉は〈康熙〉の部首を継承している。〔学図〕の「夂」は形体の似たものを選択したのか、あるいは誤植か。

3 当

漢字辞典五社及び国語科教科書四社で「小」、〈旺文〉のみ「ツ」を部首としている。「当」の旧字体は「當」で、〈康熙〉で「田」部に所属する。「小」「ツ」とも新字体の冠の部分に着目した部立てである点が共通している。

4 売

漢字辞典五社及び国語科教科書四社で「士」、〈三省〉のみ「儿」を部首としている。「売」の旧字体は「賣」で〈康熙〉では「貝」部に所属する。「士」は新字体の冠の部分に着目したもの、「儿」は脚の部分に着目したものである。

5 画

漢字辞典五社及び国語科教科書四社で「田」、〈旺文〉のみ「凵」を部首としている。「画」の旧字体は「畫」で、〈康熙〉では「田」部に所属する。漢字辞典五社及び国語科教科書は〈康熙〉の部首を継承している。〈旺文〉の「凵」は新字体の繞の部分に着目した部立てである。

6 帰

漢字辞典五社及び国語科教科書四社で「巾」、〈小学〉のみ「リ」を部首としている。「帰」の旧字体は「歸」で、〈康熙〉では「止」部に所属する。「巾」は新字体の脚の部分に着目したものである。「リ」は書き出しの偏に着目したもので、この部首は〈康熙〉には存在しない。〈小学〉独自の部立てであり、これに所属する漢字は他にない。

7 予

漢字辞典五社及び国語科教科書すべてで「亅」、〈小学〉のみ「マ」を部首としている。「予」の旧字体は「豫」で、〈康熙〉では「豕」部に所属する。また、「予」も〈康熙〉にあり、「亅」部に所属する。「マ」は〈小学〉独自の部立てであり[注4]、これに所属する漢字は他にない。

8 区

漢字辞典四社及び国語科教科書すべてで「匚」、〈旺文〉〈小学〉で「匸」を部首としている。「区」の旧字体は「區」で、〈康熙〉では「匸」部に所属する。「匚」「匸」は〈康熙〉で別立てになっているが、漢字辞典四社及び国語科教科書すべてで区別せず、

「匚」に統一している。そのため「表2　小学校国語科教科書のどれかで掲載されていない部首」で「23　匸」があがった。〈旺文〉は部首索引で「匚・匸」のように併記するが本文で別の部であるものをあわせて集めたことを断り、所属漢字ごとに「匚」「匸」のどちらかを示している。〈小学〉は別立てである。部首の区別を残す二社で〈康熙〉を継承している。

9全

漢字辞典五社及び〔学図〕〔東書〕で「人」、〈光村〉と国語科教科書三社で「入」を部首としている。「全」の旧字体は冠の部分が「入」である。この漢字は〈康熙〉で「入」部に所属する。「人」は新字体の冠の部分に着目したもの、「入」は〈康熙〉を継承したものである。

10有

漢字辞典五社及び国語科教科書すべてで「月」、〈くも〉のみ「肉」を部首としている。「有」は「又」（ユウ、右手の象形）と「肉」とから成る形声文字である。しかし、〈康熙〉で「月」部に所属する。漢字辞典五社及び国語科教科書すべては〈康熙〉の部首を継承したが、〈くも〉は成り立ちに従い、「肉」を示したのであろう。

11医

漢字辞典四社及び国語科教科書すべてで「匚」、〈旺文〉〈小学〉で「匸」を部首としている。「医」の旧字体は「醫」で、〈康熙〉では「酉」部に所属する。また、構成要素としての「医」は矢をしまう箱の意で、〈康熙〉では「匚」部に所属する。「匚」「匸」の区別に関して「8区」で記述したことを参照されたい。

12争

漢字辞典四社及び国語科教科書四社で「亅」、〈旺文〉〈小学〉で「ク」、〔学図〕で「爪」を部首としている。「争」の旧字体は「爭」で、〈康熙〉では「爪」部に所属する。「亅」は新字体の中央部分に着目したものである。「ク」は新字体の冠の部分に着目したもので、この部首は〈康熙〉に存在しない。〈旺文〉〈小学〉二社の部立てであり[注5]、これに所属する漢字は他にない。「爪」は〈康熙〉の部首を継承したものである。

13単

漢字辞典五社及び国語科教科書すべてで「ツ」、〈三省〉のみ「十」を部首としている。「単」の旧字体は「單」で、〈康熙〉では「口」部に所属する。「ツ」は新字体の書き出しの冠の部分に着目したもので、この部首は〈康熙〉に存在しない。「表1　小学校国語科教科書で共通に掲載されている部首」で唯一「新しく作り出されたもの」にあがった。「十」は新字体の中央及び脚の部分に着目したものである。なお〈三省〉も「ツ」

を部首索引に示しているが、所属する漢字は皆無である。

14巣

漢字辞典五社及び国語科教科書すべてで「ツ」、〈三省〉のみ「木」を部首としている。「巣」の旧字体は冠の部分が「巛」ある。この漢字は〈康熙〉で「巛」部に所属する。「ツ」に関して「13単」の記述を参照されたい。「木」は新字体の中央及び脚の部分に着目したものである。

15舎

漢字辞典五社及び〔学図〕〔東書〕で「人」、〈光村〉と国語科教科書三社で「舌」を部首としている。「舎」の旧字体は「舍」で、〈康熙〉では「舌」部に所属する。「人」は新字体の冠の部分に着目したもの、「舌」は〈康熙〉を継承したものである。

16営

漢字辞典五社及び国語科教科書すべてで「ツ」、〈三省〉のみ「口」を部首としている。「営」の旧字体は「營」で、〈康熙〉では「火」部に所属する。「ツ」に関して「13単」の記述を参照されたい。「口」は新字体の中央部分に着目したものである。

17興

漢字辞典すべて及び国語科教科書四社で「臼」、〔学図〕のみ「八」を部首としている。「興」は〈康熙〉で「臼」部に所属する。漢字辞典すべて及び国語科教科書四社は〈康熙〉の部首を継承したが、〔学図〕は脚の部分に着目し、「八」を示したのであろう。

18弁

漢字辞典すべて及び国語科教科書四社で「廾」、〔学図〕のみ「ム」を部首としている。「弁」の本字は「辨」で、「辨」「瓣」「辯」の共通の新字体として用いる。また、かんむりの意の「弁」は表外字である。〈康熙〉で「辨」「辨」「辯」は「辛」部、「瓣」は「瓜」部、表外字の「弁」は「廾」部に所属する。漢字辞典すべて及び国語科教科書四社は新字体と同形の表外字「弁」の〈康熙〉の部首を継承している。〔学図〕は新字体の冠の部分に着目し、「ム」を示したのであろう。

19処

漢字辞典四社及び国語科教科書すべてで「几」、〈小学〉〈くも〉で「夂」を部首としている。「処」は〈康熙〉で「几」部に所属し、「説文処止也从夂得几而止」とある。旧字体の「處」は〈康熙〉で「虍」部に所属し、「説文作処」[〈注6〉]とある。漢字辞典四社及び国語科教科書すべては〈康熙〉の部首を継承している。〈小学〉〈くも〉は書き出しの繞の部分に着目し、「夂」を示したのであろう。[〈注7〉]

20並

漢字辞典四社及び国語科教科書四社で「一」、〈旺文〉で「亠」、〈小学〉で「ソ」、〔東書〕で「立」を部首としている。「並」は〈康熙〉で「一」部に所属し、「集韻竝隷作並」とある。「竝」の省略体が「並」で、それが新字体となった。旧字体の「竝」は〈康熙〉で「立」部に所属する。漢字辞典四社及び国語科教科書四社は省略体の〈康熙〉の部首を継承している。〔東書〕は旧字体の〈康熙〉の部首を継承している。「亠」「ソ」は新字体の書き出しの冠の部分に着目したもので、これらは〈康熙〉に存在しない。〈旺文〉〈小学〉独自のもので、ともに所属するのは「兼」のみである。これは常用漢字であるが学習漢字でない。

21巻

漢字辞典五社及び〔東書〕で「己」、〈光村〉及び国語科教科書四社で「卩」を部首とし、大きく分かれた。「巻」の旧字体は「卷」で、〈康熙〉では「卩」部に所属する。「己」は新字体の脚の部分に着目したもので、「卩」は〈康熙〉の部首を継承したものである。

22党

漢字辞典三社及び国語科教科書すべてで「儿」、〈小学〉〈くも〉で「小」、〈旺文〉で「ツ」を部首としている。「党」は〈康熙〉で「儿」部に所属する。旧字体の「黨」は〈康熙〉で「黒」部に所属する。「黨」の省略体が「党」で、それが新字体となった。漢字辞典三社及び国語科教科書すべては省略体の〈康熙〉の部首を継承している。「小」「ツ」は新字体の書き出しの冠の部分に着目したものである。

23厳

漢字辞典五社及び国語科教科書すべてで「ツ」、〈三省〉のみ「攵」を部首としている。「厳」の旧字体は「嚴」で、〈康熙〉では「口」部に所属する。「ツ」は新字体の書き出しの冠の部分に着目したものである。〈三省〉は右下の部分に着目し「攵」を示したのであろう。「13単」「14巣」「16営」でも見たとおり、〈三省〉は「ツ」を部首索引に示しているが、所属する漢字は皆無である。

6　おわりに

〈康熙〉に掲示してある部首214種類のうち、小学校の国語科教科書で共通に掲載されているのは141種類であり、その反対に共通に掲載されていないのは33種類である。後者はその部首に所属する漢字が学習漢字の中に存在しない。214から33を減じた残り181のうちで、141は77.9%に相当する。小学校の国語科教科書は〈康熙〉の部首をよく継承しているといえよう。

部首の捉え方が異なる学習漢字は小学校の国語科教科書で9字、漢字辞典で21字、双

方を併せると23字になる。学習漢字（1006字）の中でそれぞれ0.9%、2.1%、2.3%に相当し、数値としては大きくない。しかし、小学校中学年で漢字の部首に触れ、漢字辞典の引き方を学習するにあたり、部首の捉え方が異なる漢字に直面した場合、学習者・指導者双方に多少の困惑が予想される。

部首の捉え方の相違は旧字体と新字体との字体の相違に由来する場合が多い。国語科教科書や漢字辞典の編著者が、何に着眼したかによってその漢字の部首が決定されている。まず、新旧のどちらの字体に基準を置いたのか、である。そして、新字体に基づく場合、どの部分に注目したか、既存の部首にあてはめたのか、新しい部首を作り出したのか、である。

国語科教科書では共通に「ツ」を部首として新しく認めたり、新字体に即して「帰」「争」をそれぞれ既存の部首「巾」「亅」に区分したりというように、学習者・指導者双方に対して工夫を凝らしている。しかし、1「内」・8「全」・15「舎」・21「巻」の4字の部首の捉え方は新字体と比較して形状の相違が大きい。これらに関して再考されることを提言する。

現場の指導者がこの4字のような字体と部首との形状の相違を矛盾として指摘される可能性がある。そのような場合、旧字体の部首を踏襲している点を踏まえた説明をするのが望ましいと考える。

〈注記〉

注1　〔東書〕〔日書〕では次のように二種類の部首が示してある場合も存する。「内・・・入（冂）」〔日書〕、「予・・・亅（豕）」〔東書〕。このような場合は先に示してある部首「入」「亅」によって整理した。

注2　国語科教科書すべてで「34夊」と「35夊」とは同じ形「夊」で示してある。〔光図〕〔学図〕〔教出〕は「夏」「変」の部首として「夊」、〔東書〕は「変」の部首として「夊（言）」を示し、部首呼称を付さない。〔日書〕は「夏」「変」の部首として「夊」を示し、「すいにょう」と付す。各社共通して脚の部分に着目している。よって、「35夊」を表1に、「34夊」を表2に掲載した。なお、〈康熙〉で「夏」は「夊」部、「変」の旧字体の「變」は「言」部に所属する。

注3　「医」「区」については、その呼称が「はこがまえ」とあるか、「かくしがまえ」とあるかで別の部首とした。しかし、「母」の呼称が「なかれ」とあるのも「はは」とあるのも同じ部分に着目したものと捉えた。「求」の呼称が「みず」とあるのも「したみず」とあるのも同様の扱いをした。

注４　「マ」を部首索引に示しているのは〈旺文〉〈三省〉〈小学〉の三社であるが、実際に所属する漢字を持っているのは〈小学〉のみである。

注５　「ク」を部首索引に示しているのは〈旺文〉〈三省〉〈小学〉の三社であるが、実際に所属する漢字を持っているのは〈旺文〉〈小学〉である。

注６　『設文解字』では「処」が本字、「處」が別体である。

注７　「夂」の部首呼称を〈小学〉は「ふゆがしら」、〈くも〉は「すいにょう」とする。

〈調査文献〉

〔小学校国語科教科書〕

宮地裕　ほか（2004）『国語』一上～六下　光村図書出版発行

木下順二・今西祐行　ほか（2004）『小学国語　ひろがる言葉』一上～六下　教育出版発行

浜本純逸・大岡信・野地潤家　ほか（2004）『小学校　国語』一年上～六年下　学校図書発行

角野栄子・倉持保男・西本鶏介・本堂寛　ほか（2001）『新しい国語』一上～六下　東京書籍発行

古田足日　ほか（2001）『小学国語』一上～六下　日本書籍発行

〔漢字辞典〕

飛田多喜雄・藤原宏　監修（2005）『光村漢字学習辞典』第四版　第五刷　光村教育図書発行

尾上兼英　監修（2001）『旺文社小学漢字新辞典』第三版　旺文社発行

林四郎・大村はま　編（2002）『三省堂例解小学漢字辞典』第二版　三省堂発行

藤堂明保　編（2002）『例解学習漢字辞典』第五版　第四刷　小学館発行

本堂寛　監修（2001）『くもんの学習漢字字典』改訂新版　第二版　くもん出版発行

下村昇　編（2005）『下村式小学漢字学習辞典』改訂三版　第九刷　偕成社発行

国際文化出版公司（1993）『康熙字典』　新華書店北京発行所発行、上海同文書局印本による影印

〈参考文献〉

濱千代いづみ(2006)　「小学生用漢字辞典における漢字の部首の立て方―『康熙字典』との比較を通して―」　『岐阜聖徳学園大学　国語国文学』第25号

近藤政美・濱千代いづみ(2006)　『漢字ハンドブック』　和泉書院発行